

物理工学系図書室へのお誘い

物理工学系図書室 小 泉 淳 子

物理工学系図書室をご存じでしょうか？機械系工学三専攻（機械・精密・機械物理）の機械系図書室、材料工学専攻図書室、原子核工学専攻図書室の3図書室が2000年4月に統合した新築物理系校舎の一角にある工学研究科・工学部等図書室のひとつです。

物理系校舎は、本部構内東南に位置し、2棟の8階建て研究棟と3階建ての共通棟からなっています。共通棟の講義室では学部生の講義が行われます。その南端3階建ての東側部分が物理工学系図書室です。地下～3階の層に分かれていて、出入り口は1階のみ、各階へは図書室内の階段で移動します。閲覧席および参考図書類・一般貸出図書は2階・3階、地下には雑誌のバックナンバーや古い図書などを配架しています。1階には、新着雑誌を集中配架、また情報検索コーナーを設けています。

入口には不正持ちだしを防止するブックディテクション、カウンターの左に図書自動貸出返却機(ABC-II)があります。ABC-IIは、各自が画面の指示に従い操作することにより図書の貸出・返却を自動で行う機械です。導入する段階では、貸出冊数から貸出を自動化する必要があるか疑問視されましたが、図書室が物理系校舎の一角という地理的条件から学部生の大幅な利用増が見込まれること、機械化できる業務は機械にまかせ、しかもこれを単なる合理化と捉えるのではなく新しいサービスのひとつとして提供する、などから導入することになりました。学生の評判は上々で、ワーすごいとか言いながら嬉々として操作しています。導入後1年半経過した現在、トラブルも減少しほとんど職員を煩わすことなく順調に稼働しています。もっともこのABC-IIを利用できない図書もあり、完全に

閲覧業務の人員が不要というわけにはまいりません。昨年度の統計では、全貸出冊数の78%がABC-IIで貸し出され、残り28%が未対応図書・教官長期貸出図書(専用図書)・雑誌の一時帯出・機械トラブル時のマニュアル貸出です。統合前の図書室所蔵の古い図書が未対応図書となっています。これをABC-IIに対応できるように遡及入力することが当面の課題のひとつです。

近年インターネットや電子メディアの急速な進展により、図書室を取り巻く環境が大きく変化してきています。OPACの利用が一般化し、学術雑誌の電子メディアへの移行が確実に進み電子図書館でフルテキストが閲覧できます。ネットワークを含む広範な情報源を使って情報ニーズを満たす情報の提供が求められています。一方では、印刷メディアも学術研究上重要な情報メディアとして存在し、収集対象資料でありつづけます。学術雑誌を購入して保存し利用に供する必要もあります。小規模の物理工学系図書室も例外ではなく、今やこの両方の要求を満たさなければなりません。

いろいろ課題をかかえている物理工学系図書室ですが、皆様に気持ちよくご利用いただけるよう心がけています。是非一度お越しいただき、図書自動貸出返却機をご体験下さい。

夏休みに入り閲覧席満杯の状態から開放され、ほっと一息ついている今日この頃です。

(こいずみ あつこ)

